

会報

〒183-8534
 東京都府中市朝日町3-11-1
 東京外国語大学ロシア語
 鈴木義一研究室気付
 東京外語ロシア会
 TEL 042-330-5268
 FAX 042-330-5429
 振替口座 00110-8-22338

蟹工船の唄が聞こえる

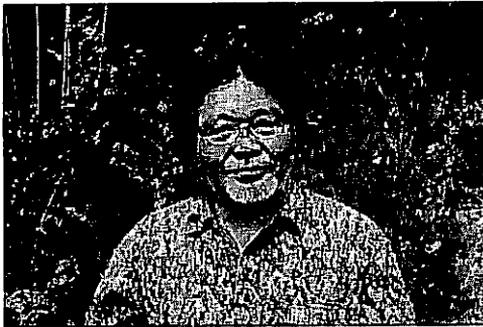
渡辺 雅司

♪アラ、ひとつとせー、人の嫌がる北洋へ、すすんで出て行くバカもいる、アラ、金銭取りとはいいいながら、チャカチャーン♪

今では禁漁となつてしまつた蟹工船の過酷な生活を、自嘲的ともいえるユーモアをまじえて教え唄にした蟹工船の唄、「北洋音頭」はこうはじまる。ぼくがこれを聞いたのはたつたの一回、それも四十三年前のことである。にもかかわらずこの唄の歌詞と旋律はいまなお、耳にこびりついてはなれないのである。

一九六七年三月、三年の期末試験を終えたぼくは、函館からアラスカ半島北のプリストル湾にむかつた。あのころのロシア語の学生は、水産庁の監視船や、鮭鱒漁船、あるいは

材木船にアルバイトとして乗つたものだった。ぼくの場合、個人的な悩



みをかかえて、あえて自分を過酷な環境に投げ出したというのが本音。

府中便り……………鈴木義一	3
著作を出して……………小林 実	4
ロシアの声を探して……………いちのへ友里	5
ロシア宗教調査「ほれ話」……………黒川知文	6
「ヨーロッパロシア編」……………工藤翔平	8
「語劇」を振り返って……………副代表三者対談	8
ロシア会計報告……………前田和泉	11

村上春樹の「ノルウェイの森」ではないが、そのころの「ワタナベ君」は、人生に迷い、悩んでいたのである。

そんな思いを、書きなぐつていたら、ノンフィクションノベルらしきものになつていた。さいわい出版社(人文書院)もついでそのうち本になるらしい。なにも「カニコー」ブルムに便乗するつもりはないが、これまでの自分の心の澱のようにしまいこみ、きちんと言葉にしてこなかった個人的体験を、書くべきときがきたのかと思わされたのだった。そのきっかけは、ぼくの同志社時代の一番弟子ともいうべき、作家の佐藤優君が、自伝的小説「私のマルクス」で、二十七年前の二人の魂の会話(もちろん酔つた上での)を、克明に再現してくれ、蟹工船の話になると、ぼくが口をつぐんでしまつたと書いていたことだった。その後いわゆる「蟹工船論争」が起こり、佐藤は小林多喜二の「蟹工船」をあまり持ち上げるべきではないという立場

を強く表明するようになる。だからこのたびのぼくの「作品」は、個人的体験とはいえ、それを通して蟹工船の実態、それも多喜二がこれでもかと誇張して描いた監督による暴力支配、プロレタリア文学特有の図式性とは違つた、であるがゆえにいつそう怖い現実をあぶりだすものにならなくてはならない。そうすることで佐藤優君への宿題が果たせるだろうとは、書きながらいつも思つていた。

それと個人的体験である以上、多くの育つた環境も追想のかたちで書かざるをえなかつた。ぼくは「池袋モンパルナス」と呼ばれるアトリエ群に囲まれ豊島区千早町に育つたから、物心ついたころから絵を習つていた。洋画界の仙人といわれた熊谷守一翁はわが家の目と鼻の先に住んでおられた。それどころか詩人の小熊秀雄がなくなつたアパルトもまだ残つていたし、わが家の家作に、なんと昭和のはじめには大泉黒石一家が住んでいたというのだ。トルストイの屋敷の隣で育つたという無頼のロシア人混血作家黒石(コクスキ)は、「俺の自叙伝」で作家デビュー、一躍文壇の寵児となつたのだった。こうしてみると、まったくのはずみでロシア語を選んでしまつたぼくではあるが、深いところでロシアと結ばれていたのかも知れない。さらにぼくの祖父は二〇三高地の生き残

りて、乃木將軍に見込まれその後学習院の守衛長となり、小学生時代の昭和天皇を毎朝お迎えしていたらしい。腕白なぼくはそんな祖父の留守をねらって金鶏勲章をぶら下げ、戦争ごっこをしたものだった。

♪アラ、二つとせー、二親はなれた浜千鳥、今日は東へ明日は西、アラ、たどりついたかカムチャツカよ、チャカチャーノン♪

流水に閉じ込められ、一週間にわたる北太平洋の大時化に翻弄されながら、かつて大黒屋光太夫一行が漂着したという渺茫たるアムチトカ島をかすめ、十二日目に、濃い霧の中から突然姿を見せた母船を目にしたのだった。それはまるで幽霊船、奴隷船。舳先は垂直で、舷腹にはカニコとよばれるカニを入れるむしろが干してある。突然ウインチで吊り上げられ、母船に降り立ったときにはつんのめってしまった。母船でのぼくの仕事は、まずソ連側の無線の傍受、さらに抗議電報の作成(ほとんど毎晩)、それにソ連船団との交渉の通訳、それとアメリカ人オプザーバーの英語通訳がそれに加わる。

♪アラ、三つとせー、みなさまご承知の北洋は、日本の領土じゃないけれど、アラ水産庁に警備され、チャ

カチャーノン♪

日本の漁業は略奪的だ。技術の高さがそれに拍車をかける。北方領土がかえってきたら、魚はいなくなる。とぼくに打ち明けたのは、三十年も前に釧路漁協でのロシア語講習会に来た船頭だった。それは蟹工船でも同じで、日米ソ三国協定で決まった漁獲高の倍はとっている。二重帳簿が船内でまかりとおっている。水産庁の警備はないけれど、監督官は見えて見ぬふりなのだ。

♪アラ、六つとせー、むやみと伸びるは髪ばかり、それを缺でザン髪よ、アラ、虎が出たと大騒ぎ、チャカチャーノン♪

ぼくは今、ひげを生やしているが、最初にそれを試したのは蟹工船だった。髪も伸ばし放題だったから、かなりな長髪になっていた。半年後に戻った日本ではヒッピー文化が広まりつつあり、ぼくは長髪のまま軟着陸したのだった。そのころ、長髪に対する世間の目はかなり厳しかったのである。

♪アラ、七つとせー、長い航海のそのあいだ、待つてる彼女がうらめしい、アラ六ヶ月のその間、チャカチャーノン♪

井上陽水の名曲「傘がない」が流れたのは、その数年後だが、ワタナベ君が迷っていたのはまさにこのテーマだった。愛する彼女を残してぼくは蟹工船に飛び込んだのだった。そのかわり酒も飲まずにハングリー精神でよく勉強した。ノルマは一日八時間、まず読破したのがマルクスの「経済学批判」のロシア語訳だったのだからあきれる。船での話題はいつでもどこでもオンナ。そんな純愛派のワタナベ君はいつも格好の酒の肴にされるのだった。「オンナは抱かなきゃわからねえ」が、蟹工船での公理だったのだ。

♪アラ、九つとせー、今度来るときや北洋も、どうかあつくなるように、アラ、来年来るまでサヨウナラ、チャカチャーノン♪

プリストルの夏至の日、西に沈んだ太陽が、数時間後には東の空を焼いていた。しかも風が吹いたと思うと、雲を運んでくる。そんな中で、水葬の儀式が肅々と行われていた。坊主の袈裟をつけた船団長が、お経を誦む。日章旗にくるまれた白木の棺。そこにあるうことか、仲積船でぼくと一緒にやってきた秋田の若者の名前を見てしまったのだった。

前日の積荷作業中に、鉄の梁が落下、三人の命を奪ってしまったのである。この航海では五人の命が失わ

れた。高度成長と技術革新をひた走る日本から遠くはなれたここでは、人の命はあまりに軽かった。むろん多喜二が描いたようなむき出しの暴力支配はなかったが、それにかわる歩合制という金銭支配が露骨にまかりとおっていたのである。

♪アラ、十つとせー、とうとう来ました切り上げが、なれた漁場を後にして、アラ、明日は函館かえるのよ、チャカチャーノン♪

その後の自分の人生を考えると、この蟹工船での生活、とりわけ沖の川崎船に向かって「船は沈んでもカニ持ってきて来い」と叫んだ本社社員の言葉がぼくの進路を決めた。会社員にはなるまいとその時決心したのだった。こうして学問の道へ踏み出したぼくだが、帰国後の全共闘運動を経て、ぼくの関心は経済学からロシア思想史へと転轍され、またもやギザギザな軌跡をたどることになる。これについては日本ユーラシア協会の機関紙「日本とユーラシア」に連載した「はるかなるロシア(1)」(15)をお読みいただきたい。(昭44卒)

府中便り

鈴木 義一

昨年の『会報』(第一二号)で、モスクワ大学との間で交流協定を締結し、初年度は双方から二名ずつの学生を派遣したことを述べたが、この一年間にロシアの大学との交流はさらに進んだ。サンクト・ペテルブルク大学との間では、昨年すでに始まっていた交渉が順調に進み、今年二月一六日付で交流協定が成立した。同大学の「言語・芸術学部」との間で締結したが、他の学部(学生にも門戸が開かれており、外語大の学生の側も一定の条件を満たせば他学部の授業を聴講できるようにしている。さらに、モスクワ国際関係大学(MTI MO)との交流協定も双方の大学での審議はすでに終了しており、九月または十一月に両大学の学長の出席のもとで調印式を行う予定である。これにより、ロシア国立人文大学、モスクワ大学、サンクト・ペテルブルク大学、モスクワ国際関係大学の四大学、すなわちロシアの人文・社会系の主要大学すべてとの間で学生の交換を含む交流関係が成立した。ちなみに、沼野恭子先生が担当者となってベオグラード大学との交流協定も締結される見込みである。

モスクワ大学からの留学生(マリアさんとロマン君)はとても優秀な学生で、留学生日本語教育センターの教員の間でも評判になった。大学間の協定により外語大に留学する学生は、「国際教育プログラム」(IS EPT UFS)の教育を受けるが、近世初期の日本史を研究テーマとする二人は、外国語学部の古典文法や古文書読解の授業・ゼミにも出席する意欲的な学生であった。九月に来日するモスクワ大学からの学生は、今年から「アジア・アフリカ諸国学部」だけでなく、「世界政治学部」からも一名加わる。サンクト・ペテルブルク大学からは言語学部と東洋学部から一名ずつが九月末に来日し、外語大からも二名の学生を派遣する。

次にイベントを二つ。恒例の「東京外国語大学中野健三基金シンポジウム」の第一四回は、「ロシア東欧アニメの魅力」と題して二月一日に開催された。講師はロシア映画研究家の井上徹氏であった。無声映画の時代のロシアのアニメから、近年の映画「ナイトウォッチ」で使われている「パラパラアニメ」に至るまで多種多様なアニメとその歴史が、映像とともに詳しく紹介された。また、日本で知られているものとはまったく異なるロシア版の「熊のプーさん」や、シニールなチエコのアニメなど、貴重な映像が次々と紹介され、興味の尽きない内容であった。

次に、亀山学長が研究代表者である科学研究費の研究プロジェクトによる国際ワークショップ「ポスト・スターリン時代の文化的想像力」が二月二日に開催された。亀山学長の開会の挨拶に続いて、アレクサンドル・ゲニス氏(評論家)が「亡命ロシアの『第三の波』…自由の仮縫



国際ワークショップ「ポスト・スターリン時代の文化的想像力」より 左から塩川、ゲニス、西、池上各氏

治人類学的考察の試み」、西周成氏(映画作家・映画研究者)が「ソ連における『ポスト冷戦型』映画文化の形成…雪解け時代の再考」、池上善彦氏(『現代思想』編集長)が「戦後日本のスターリン文化…一九五〇年代を中心に」の報告を行った。報告者はいずれも、それぞれの分野の代表的な研究者であり、限られた時間ではあったが密度の濃い討論が行われ、実り多いワークショップであった。また、会議全体を通じて、複雑な議論を正確に訳した柴田友子氏と吉岡ゆき氏の通訳もすばらしいものであった。この科研のプロジェクトは今年が最終年度にあたり、来年一月に国際シンポジウムを開催する予定である。詳細が決まった段階で外語大のホームページの「イベント情報」に掲載されるはずである。

ところで、国立大学は法人化以降、政府から予算配分される「運営費交付金」を毎年一%削減されてきた。今年はこのに加えて、菅内閣が各省庁に概算要求を一〇%削減するよう指示を出したため、大学はいっそう苦しい状況に置かれている。こうした中で、国立大学が質の高い研究・教育を維持するためには、大胆な発想での行動が求められる。来年のこの「府中便り」では、東京外国語大学なりの取り組みについてお伝えできらるだろう。

い」の報告を、アレクセイ・ワルラーモフ氏(モスクワ大学・作家)が「土壌主義者と自由主義者の見たソヴィエト文学の『正統派』と『異端派』」と題する報告を行った。続いて、研究プロジェクトの学外メンバーである塩川伸明氏(東京大学)が「『成熟』停滞』期のソ連社会…政

(教授・ロシア経済史)

著作をだして

小林 実

今年の四月に拙著『明治大正露文化受容史』が春風社より刊行されました。初めての著作であるということもありますが、十年かかってまとめあげた研究成果ということで、感慨一入であります。

外語に在学中は、授業そっちのけで青春を謳歌していたせいで、ロシア語もろくに身につかず、しかもそんな我が身はそっちのけで、ロシアのことばかり学ぶ環境に息苦しさを覚えるようになり、卒業する頃には大のロシア嫌いになっていました。

卒業後は、立教大学の大学院で日本文学を専攻し、ようやくロシアにわずらわされず好きな勉強ができると思っていました。ところが、やはり私を外語のロシア科を卒業したやつという目でみますから、なにかというロシアのことをきかれる。ロシア文学の原文のことをゼミで発表しろといわれる。かえってロシアが重くのしかかってきたわけです。それにくわえて、まわりが話すロシアのことが、あまりに古いステレオタイプであったり、ロシアもフランスもイタリアも区別なく話しているのをきいたりすると、妙にいらだってきます。ゲルツェンを知らない。ゴリポエードフを知らない。ゴーゴ

リとゴリキーをまちがえてはばからない。ウラジミールをウラジミールと読む等々……。

べつにどうでもいいことなのですが、若造だった当時の私には、いちいちそれが気に障る。そして気がつくくと、サボっていたなりに耳にしていた外語の授業のうけうりを滔々と……しゃべりたくても知識が中途半端だから、いいかげんなことしかしゃべれないもどかしさにのたうち回る。あのときほど、もっとまじめに授業を受けておけばよかったですと後悔したことはありません。

で、遅ればせながら勉強しました。ロシア語はいいかわらずたいして身につけていませんが、ロシア文学は片っ端から、翻訳をみつけて読みあさりしました(パステルナークあたりまで)。研究書を買いました(すべて読んだわけではありません)。今はなき神保町の新世界レコードでは、あやしげなロシアン・ポップスのCDをおそろおそろ買ったりもしました(こうしてゼムフィラを知りました)。そしていまでもナウカで無駄な買い物をつけています(……)。そんなある日、大学の給湯室で指導教授から、「大津事件について調べてみない？」などともちかけられて、そんな日本人のロシア嫌いをわざわざ証明するのも癪に障るとブツブツいいながら昔の新聞をマイクロフィルムで読んでいたら、西郷隆盛

がシベリアで生存していてロシア皇太子といっしょに帰国するという噂に出会い、あまりのバカバカしさに

おもわず夢中になって、うっかり論文にしたら新聞研究者と勘違いされ、文学研究なんかどうでもいいから文化研究をやれといわんばかりに、こゝろは指導教授から「ロシア革命について調べてみるように」という敵命がくだって、そんな竹やりもつてソ連戦車につっこんでいくような真似ができるかい!となんとか逃げの一手をかんがえていたら、むかし渡辺雅司先生が教室にルバーシカを着てこられたのを思い出し、そういえば戦前を時代設定にしたドラマには、かならずルバーシカを着たあやしいやつが登場すると気づいて、こいつあぜつたい革命と関係あるとふんであれこれ調べていたら、新宿中村屋に亡命ロシア人が集まっていたことや、早稲田大学の若手教師がドストエフスキーにハマって、あげくにロシア文学科をつくっちゃったこととか、その早稲田の連中に外語の卒業生がいいように利用されてたこととか、出てくるわ出てくるわ……。要するに、私のつまらん自意識など吹っ飛ばすほど、日露交渉の文化史はおもしろいことだらけなわけで(二葉亭四迷の発明した語尾表現)。

で、いまいったようなことをまとめあげて博士論文とし、審査には渡辺先生にもお世話になり、それを出版したのが拙著であります。なので、

詳しいことは本書をお買い求めください。

そういえば亀山先生の『カラ兄』の新訳で火がついたドストエフスキー・ブーム。ちょうど同じころ『蟹工船』ブームもありましたが、ドストエフスキーとマルクス主義が拮抗するのつて、昭和初期とおなじ現象。小津安二郎の映画「大学は出たけれど」が封切られたのは昭和四年のことです。

そして、そろそろドストエフスキー以外のロシア文学も、日本人の関心をよんでほしいところです。トルストイ没後百年は、いまひとつ盛り上がっていませんが、ブームには仕掛け人とメディアが必要なので、その点トルストイ関係はいまひとつなのでしようか。個人的には、ゴーゴリがうけそうな予感がします。死者の戸籍を買いあさる『死せる魂』とか(キーボード打ちまちがえて『死せる多摩市』と出た……: 出来すぎたパロディ)。

二年ほど前、高見のつば氏とお話しする機会があり、ロシア文学では誰が一番好きかと訊ねられました(センスをためされました)。そのとき、さんさん迷ったすえ「チエホフです」と答えたら、「うん、よし」と首肯してもらえました(なにが「よし」なんだ)。のっぽさん、とても恐かったです。

(平成七年卒。十文字学園女子大学短期大学部講師)

ロシアの声を探して
悔いなき命をひとすじに

いちのへ友里

「生みの国」日本と「育ての国」ロシアで、仕事でも恋愛でも、いつも前へ進もうとしつづけたその女性の生き方は、ロシア風にカーチャと呼ばれていたせいなのか、どこか「モスクワは涙を信じない、信じるのは愛だけ」と歌われるあの映画にも重なる。岡田嘉子は、女優であり「ロシアの声」アナウンサーだった。



「モスクワ放送」スタジオでニュース原稿を読む岡田嘉子さん

「Голос России Москва — ouchiらはロシアの声。モスクワからの日本語放送です。」日本語を含む約40言語で世界一六〇カ国に向けて配信され

ている国際ラジオ放送「Голос России (ロシアの声)」。一九二九年「Радио Москва (モスクワ放送)」として創設当時は、主にプロバガンダ放送としての役割を担ってきたが、ロシア誕生とともに社名も方針も変わった。なんといつてもその最大の魅力は、日本で、日本語で、ロシア人と心ゆくまで会話を楽しめるような時間にあるだろう。「日本では春を告げるものといえは「鶯」と「梅」、ではロシアでは？」そんな素朴な疑問から、「チャイコフスキーを支えたフォンメック夫人とは？彼女が与えた音楽的影響とは？」なんて専門的な質問まで、日本人とロシア人が電波を通して会話できる『お答えします』や『お便りスパシーバ』をはじめ、『文化の世界』『モスクワミュージックマガジン』『スポーツの時間』『ビジネス情報』……毎日日本時間21時から、ラジオ短波・中波、インターネットでお耳にかかれる。ロシア人の息遣いもそのままに伝えようと、あえて直訳された表現からは、たとえばモスクワで開催されたバレエボール女子世界選手権決勝で白熱したゲームを制した日本チームを称えた「東洋の魔女」、あるいはソ連のレオノフ飛行士の人類初となる船外活動成功を祝した「宇宙遊泳」など、「ロシアの声」から日本に定着した表現もある。

二〇〇七年、そんな「ロシアの声」アナウンサーとして勤務する機会を得て、私は初めて岡田嘉子という女性に出逢った。アラ・ナジモワに憧れて女優を志し、「軍国主義のお先棒を担がされる芝居でなく、モスクワで本物の演劇を学びたい」そんな野心を胸に演出家の杉本良吉と「雪の国境」を越えた。すぐに最愛の人と離され一人に、「ありがとう」「トイレ」の2語しか分からない状態から10年。「あたくしは自分の過去を後悔するってことが嫌いなんです。だからどんなことでも、自分のいいように考えて。ここに来なければ勉強出来なかったし、いろんな点でやっぱり成長させていただいたと思ってるんです。ただこれから先、これが本場に生かせればいいんですけど。」

日本初のラジオ放送で活躍していた女優は、なんと今度はロシア初の日本語アナウンサーになった。

女優としての経験を生かし、多くのソ連文学を翻訳・朗読して優れた文芸番組を残した。同時に52歳でモスクワ国立ルナチャルスキー演劇大学に入学し、卒業公演では『女の一生』を演出、マヤコフスキー劇場の演出家にまでなった。「このまま立ち止まることではないのでしょうか？演劇の神バツカスに捧げた道も、まだ遙かです。日ソ両国のかげ橋、生みの親と育ての親のきずなとなる道

も、まだこれからです。」日本からロシアへ少女のように目を輝かせて夢を追い続けたその魂、そして伝えなければならぬ「ロシアの声」があるのだという強い志は、今も日本語課にしっかりと受け継がれている。



「ロシアの声」の放送スタジオ風景 一番左が筆者

ハバロフスク地方と姉妹都市にある青森に生まれ、いつかロシアと日本の間で何か出来たらという夢を持って外語大へ入学した私。大学卒業後、舞台『赤毛のアン』主演をきっかけに芸能活動をスタートすると、その一歩一歩はロシアから遠ざかっていた

くもの思われた。しかし、進めば進むほどに、なぜかロシアは近づいてきた。どこへ行つて、誰と会つて、どんなことをしていても、ロシアがきつかけで話題が広がりが、出逢いが広がり、世界が広がっていく。舞台ではロシア語のスピーチをし、映画では影響を受けたロシア監督について盛り上がり、故郷の新聞ではハバロフスクを紹介するため現地を訪れた。そうして目の前のチャンスに感謝しつつ無我夢中で挑戦していたら、まるで点と点がつながって線になるように「ロシアの声」に導かれた。

アークイブに残る岡田嘉子さんの声には、魅了してやまない何かがある。何度もその声に救われ、そして励まされた。“日本”と“ロシア”で、アナウンサーとして私が伝えなければならぬ「ロシアの声」はどこにあるのか。自分の人生の主演女優として、私が演じたい役はいったい何なのか。まっすぐ前進しつづければ、いつかその答えは見つかるのだろうか。そして私は、初の東京特派員として帰国することになった。

「悔いなき命をひとすじに」府中キャンパスからも近い多磨霊園に眠っている岡田嘉子さんの墓碑には、そう刻まれている。

(平成13年卒)

ロシア宗教調査

こぼれ話
—ヨーロッパロシア編—

黒川 知文

文化庁による海外の宗教調査が二〇〇〇年から実施されており、これまでアジアと南米、欧米の宗教調査が実施された。さらに二〇〇八年から四年間にわたり、スペイン、カナダ、スウェーデン、ロシアの宗教調査が計画されている。宗教法研究者と宗教研究者それぞれ一名選出されて国別に宗教調査が実施される。中央大学法学部K教授と私がロシアの宗教調査をするように突然の電話で依頼された。前回調査した研究者が研究業績を基にして推薦されたとのこと。現地調査は最長十日間で十分な研究予算。うれしかった。訪問できなかった分離派共同体、ソロベツキー修道院、ピロビジャン等の歴史的に貴重な修道院、教会や、宗教施設を訪問できるのだ。ところでロシアには、キリスト教(ロシア正教、カトリック、プロテスタント等)、ユダヤ教、イスラーム、仏教を中心に多くの種類の宗教が存在し、その歴史も長く複雑である。したがって、ロシア全体の宗教状況を現地調査するには最低三年間が必要だと考えら

れる。そこで二〇〇九年度は、ヨーロッパ・ロシアにおけるロシア正教とユダヤ教を、二〇一〇年度には、シベリヤ地方を対象にして主にキリスト教とユダヤ教、仏教、宗教教育について調査し、二〇一一年度には中央アジア地域のイスラームとキリスト教について調査することを文化庁に申請して受け入れられた。

二〇〇九年八月に調査したのは、モスクワ市、サンクトペテルブルク市、スズダリ、ウラジーミル、セルゲイボサド、ペトロザヴーツク、キージ島、ケミ、ソロベツキー島の合計21の歴史的な教会、修道院、シナゴーク(モスクワ)である。研究補助員として立教大学非常勤講師井上まどか氏(94年卒。東大大学院で宗教学を専攻して博士号取得)も同行した。

ロシア正教への回帰

ゴルバチョフは一九八八年にピーメン総主教にソ連政府が教会に対して行った過ちを謝罪し、ロシア宣教千年祭を国家的祝祭として実施した。一九九〇年には「良心の自由と宗教団体に關する法律」「信教自由法」が制定され、プロテスタント教会が増加した。一九九一年のソ連崩壊後、しばらくは宗教的力オス現象にあったが、ロシア正教への回帰現象が確実に起きている。共産主義思想に代

わるものとしてのロシア正教。帝政期における教会とツァーが国家を治めるビザンチンハーモニーの復活現象が確認できた。二〇〇〇年のブーチン大統領就任式がモスクワのウズペンスキー教会で総主教司式によって挙行されたことは、帝政ロシアのビザンチンハーモニー復活の典型である。その背景には正教を使って国家を統一しようとするブーチンの意図が存在する。二〇〇一年にブーチンは「外国人宣教師は国家安全をおびやかす敵である」と述べ、ロシア正教聖職者による宗教教育が学校に導入された。

二〇〇八年に実施されたロシア人の宗教意識調査によると、神の存在を信じないロシア人は10%であり、ロシア人の67%は神の存在を信じていることが判明した。ロシアはアメリカに匹敵するキリスト教国になったことがわかる。

教会・修道院の観光化

ヨーロッパ・ロシア全般において、ロシア正教会は復興して信徒も増加している。教会堂の再建、新築がいたるところに見受けられる。教会にはみやげ店が数多く隣接しており、ほぼすべての施設において、観光客が見られた。

世界遺産に選ばれた施設だけでなく、様々な種類のみやげ物が店に置

かれ、歴史的教会や修道院は、観光地化していることが確認できた。

かつて、私は東京外国語大学二年と三年の時に二回ロシアを旅行した。その時は社会主義時代であり、教会はひっそりとしており信者も少なく、教会堂入口の暗がりに色あせた絵葉書等の質素なみやげ物が置かれていた。だが現在では、教会の歴史や聖職者の生涯に関するDVDやCDやビデオ、金色に輝く什器、彩色豊かな写真、豪華本やアイコンなどが土産店に所狭しと陳列されている。大規模なキリスト教書店もモスクワに何軒かあり、繁盛している。過去とは雲泥の差である。

政府から教会への公式の金銭的援助はないが、大統領は個人的に教会に献金しており、ロシア企業からも教会への献金があるとのことである。ロシア人はロシア正教に確実にたちもどり、それを精神的よりどころにして新たな国家建設に向かっていく。

(昭53卒。愛知教育大学教授 文学博士(東京大学)。著書に『ロシア・キリスト教史』(教文館、1999年)、『ロシア社会とユダヤ人』(ヨルダン社、2003年)、『西洋史とキリスト教』(教文館、2010年)等がある。)

表 ロシアにおける宗教意識調査(社会調査機関 Левада Центр が無作為抽出したロシア人成人を対象に実施した世論調査)

http://religion.sova-center.ru/discussions/1BDDDB2D/AC0E849?pub_copy=on

どの宗教をあなたは信じますか?	2003年	2004年	2007年	2008年
ロシア正教	59%	60	69	71
イスラーム	4	3	6	5
カトリック	1	1	1	1
プロテスタント(バプティスト、福音派、ルター派等を含む)	1%以下	1	1以下	1
ユダヤ教	1以下	1以下	1以下	1以下
仏教	1以下	1以下	1以下	1以下
特段の宗教なし	18	16	16	15
神を信じるが、特定の信仰は持たない	12	13	—	—
無神論者	4	5	6	5
その他	1	1	1	1
回答拒否	2	2	2	2

下記のうち、神の存在に関するあなたの考えにもっとも近い記述はどれですか?	2008年1月調査
神の存在を信じない	10%
神が存在するかどうか知らないし、その存在を確認できとも思えない	9
神を信じないが、何らかの至高な力を信じる	11
時々神の存在を信じ、同様に時々信じないことがある	14
神の存在を信じるが、時折疑問に感じることもある	21
神の存在を知っており、疑問に感じることも全くない	32
回答拒否	4



『語劇』を振り返って

〈副代表二者対談〉

二〇〇九年度の語劇は「チエーホフ小品集」と題して、短編四作「愚かなフランス人」、「コーラスガール」、「別荘で」、「別荘の人々」を上演しました。それぞれの劇を副代表が振り返ります。

対談者：二〇〇九年度ロシア語専攻語劇副代表
北川尚弥(北)・工藤翔平(工)

工：いやあ、懐かしいね、語劇。
北：ほんと、もう九カ月もたったんだね。信じられん(笑)。
工：終わっちゃえばほんとに過去の話で、やったのはもっと前みたいな感じがするわ。
北：そうだよな!

工：じゃあ早速始めようか! まずは、「愚かなフランス人」。通称「おろフラ」(笑)

〈愚かなフランス人〉

北：「おろフラ」ね(笑)。なんか、全体的に他の劇と違ってシユールな雰囲気があったかなあと思う。

工：シユールな雰囲気ねえ!

北：使っている音楽だったり、衣装だったり、演技だったり:

工：確かに。フランス人のモノローグが多かったよね。「おろフラ」の演出兼役者の構想がモノローグを中心としたものだったからそういう仕上がりになったんだらうな。

北：確かにね。ある種独特な雰囲気を持った作品に仕上がったようにも思う。

工：しかもトップバッターだったからね。「II」のめっちゃめっちゃ緊張する舞台の上で、よくぞあそこまで演じてきてくれたって感じ。

北：笑いも少しとれたしね(笑)。また個々人の演技のレベルも高かったような気がするな。

工：そう。その結果当日にはちゃんとした一つの作品にまとまって形になった。

北：話したいことまだまだあるけどページ数がない(笑)。そろそろコーラスガールに移ろうか。

〈コーラスガール〉

工：コーラスガールにはなおりん(北川尚弥)も役者として参加したよね。何の役だったっけ?

北：パトロンの役だった。ぶっちゃけ初めはあんまり乗り気じゃなかったんだけど:

工：役者をやる何が?

北：そう。だけど、残りの二人がパッションに満ち溢れた人たちだったから何とか引つ張ってもらえたかなと思う。

工：あの二人にうまく乗っかれてできたって感じかな?

北：そうそう。んで、練習の時間や、開始・終わりもかなりきっちりして、比較的計画的かつテンポよく本番まで取り組めたんじゃないかなとも思う。

工：グループも三人で構成されていたし、まとまり良かった。三人しかいなかったけど練習時に一人だけってことはほとんどなかったね。逆に自分が参加しなきゃ劇の練習が成り立たないっていうプレッシャーがフランスに働いたのかも知れんね。

北：そう。あと劇に関しても俺以外の二人で結構激論を飛ばしていたみたい。

工：なおりんを除いた二人は真剣に劇にぶつかってたってことだね。

北：まあね(笑)だから、あの舞台上での二人の喧嘩のシーンも現実を

昇華させたものだったと言えるかもしれない(笑)。

工：じゃあ、次、「別荘で」行こうか。

〈別荘で〉

北：「別荘で」はともかく謎に包まれた劇だったね。

工：そうね。とりあえず、人がなかなか揃わなかったから。「II」を借りられた時もまともな練習が出来てなかったんだよ。だから役者同士でも「別荘で」の細かいストーリーや展開を知っている人はかなり少なかったと思う。

北：実際、メンバーは皆忙しい人たちだったから仕方ない部分もあったのかも知れないね。しかしここもまた個人の技量の高いグループだった。

工：そう。逆にあれだけ通しの練習回数が少なかったのにもかわらぶよくもあそこまで形になったなあと思った。結構すごい。

北：そうそう。

工：でも、演出の田村さんは大変だったと思う。なかなか人数が揃わないグループをまとめて練習を進めていかなきゃならなかったから。そういう意味でも、「別荘で」のグループの演出が演劇部出身の田村さんで良かったと思う。

北：確かに。彼女の存在は大きかった。

たよね。あと、演出も面白かった。
工：客席の間を役者が歩いたりするやつね。
北：うん。

工：そこはコーラスガールに関しても言える事だね。あれも、安達さんが舞台袖から客席の方まで少し出てきてからの劇開始だったからね。
北：だから、各劇で演出をなかなか凝って進めていたとは思わう。

北：あと、みんな演じることに慣れているっていう感じがした。声も大きく出ていたし、練習時間の割に一番形になっていったのはやっぱり「別荘」だったな。
工：では最後、「別荘の人々」

く別荘の人々

北：これはしよーへー(工藤翔平)が頑張ってやってたね。
工：どうも。なんかウチの劇はい

い要素をたくさん持たせてもらえてありがたかったと思う。登場人物も一番多かつたから絵的にも華やかだったし、一人一人の台詞もそんなに多くないのに劇として見栄えがするものになったんじゃないかと思ってるよ。まあ自画自賛だけど(笑)。
北：ああ(笑)メンバーも真面目な人が多くて練習が計画的に進んだイメージがあるけど…

工：そうね。確か役者が七く八人

いたんだよ。それでも、毎回の練習

に必ず五人は来てくれた。みんなそれぞれに予定があるし、部活で店を出す人もいたよね。でも、とりあえず参加してくれるってことがまとめる側のモチベーションをだいぶ支えてくれたと思ってる。だから、まとめたっていうよりはメンバーがまとめやすい環境を作ってくれたんだと思う。それに関しては本当に感謝ですな。



メイクを終え、白ワインを飲んで意気揚々の男役者たち ~本番直前の控え室(102教室)にて~

北：じゃあそろそろまとめに入るうか。
工：総括ね。

く総括

工：とりあえず後輩に伝えたいこ

とは一つ。ロシア語の脚本を夏休み中には何としても完成させること。
北：そうね。

工：動きや衣装は実際本番直前でも何とかなる部分が多いけど、ロシア語の台詞を覚えるのは一日や二日じゃ不可能。だから前もって脚本を上げてもらったうえでどうしたって長い期間をかけて台詞を覚える必要がある。
北：そうなんだよ。しかも、基本の台本を早く上げれば上げるほど後から話に膨らみを持たせることができるし、細かいところまで追求する時間が生まれるんだよね。結果として、劇の完成度が高くなるのはい言までもない。

工：俺らの時はなんたってすべてがギリギリで網渡りのような状況だった(笑)。だから、脚本もちゃんと上がったのは十一月月上旬。本番一カ月切ってたんだよね。
北：あとは、俺らの場合は原作に自分たちでストーリーを付け加えたから、そのロシア語をネイティブの先生に校閲してもらった必要があった。だから、お願いしたんだけど彼女らもなかなか忙しい方々だから予定が合わなくて。かなり前の段階から打ち合わせをしておく必要があると思

う。
工：結局発音等でお世話になるわけだしね。
北：そう。何より早めの準備が肝

心つてことでしょ。
工：俺個人としては、劇に関わってたよかった。面倒くさいことも喧嘩っぽくなつたこともあったけど、劇の終わりにみんなに挨拶できたのが最高の思い出!
あんなに大勢の前で話をするのは後にも先にも無い気がするな。
北：あと大道具の人数も少なかったね。
工：ほんとそう。一つ一つの劇の間に道具を運んでのが役者だったしね(笑)。
北：そうー本番に誰がどの道具を持っていくのか、どこにどう出すのか。そこまでちゃんと決めてから本番を迎えるべきだった。舞台暗いからだ。だでさえ正確な道具の位置が把握できないのに。
工：そう。だからやりすぎでしょって思うくらいまで細かいことをギリギリまで詰めていくのは大切だと思

う。
北：その通り。じゃあこんな感じで締めようか。
工：ですすね!お疲れ様でした!
北：お疲れ様です!

「チエーホフ小品集」

①愚かなフランス人

あるレストランでフランス人が食事をしてた。そこに後からロシア

人がやってきて異常な量の食べ物を注文し、フランス人は彼が飽腹自殺を図っているのではないかと危惧する：

出演

フランス人紳士・演出：小林延光

ロシア人紳士：田辺貴裕

給仕：寺内富久美

医者：森貴洋

②コーラスガール

ある歌姫とそのパトロンが歌姫の家にいるところにパトロンの妻がやってきて、今まで夫が歌姫に貢いだ金を返せと要求し口論が始まる：

出演

ターシャ・演出：折田あきら

コルバコフの妻・演出

：安達郁恵

コルバコフ：北川尚弥

③別荘で

ある中年男が見知らぬ女性から手紙を受け取る。内容は「東屋であなたを待つ」というものだった。妻帯者の中年男は果たしてどうするのか。

出演

パーヴェル・演出：田村有紀奈

ミーチャ：竹田圭助

パーヴェルの妻：時森祐樹

ブロンド娘：久保舞華

④別荘の人々

新婚夫婦が別荘にやってきた。二人だけの楽しい時間を過ごそうとするが遠くから汽車の汽笛が聞こえてきて……

出演

サーシャ・演出：工藤翔平

ヴァーリヤ：小林なつ希

伯父：志村紀幸

伯母・月：北村彩乃

おばあちゃん：江原理沙

コーリヤ：白木英美

ニーナ：長尾みどり

フイーファ：杉下実和子

スタッフ

脚本：千葉信人

代表：牧野寛

副代表：北川尚弥・工藤翔平

照明：新野夏海・筒井暁之

音響：東原智美・坂本彩

大道具：小野翼

衣装：小関友恵・村上瑠理子

メイク：小林なつ希・加藤仁美

校閲：イリーナ・ダフコヴァ先生・

浜野アーラ先生・前田和泉先生

「語劇」百年の歴史から

「語劇って？」と訊かれたことありませんか。辞書にはない言葉です。

しかし、外語には「語劇」の百年にもなる歴史があります。その第一回目が一九〇〇（明治33）年八月発行の、校友会雑誌第一号に「各語學科聯合して、一大講演會を舉行せんことを決す」とある催しでした。

同誌によると、同年四月二十八日、

高等商業学校講堂を会場に「満場立錫の餘地なき迄に、來賓無慮千余名來集」して、午後五時から十時まで行われました。催しの名が示すように、今風に言えば専攻語での演説が主だったようですが、記事の後半に二つの戯曲が演じられた次のような描写があります。

……明治音楽会諸氏の奏する樂の音、「リンデンポルカ」の美妙なる、眞に天国の舞樂とや云はん、世界の粹たる佛國の語を學びつゝある佛語科は、「モリエル」作の「女學者」（戯曲）を演じはじめたり。夜會服の艶なる、燕尾服の深黒なる、何ぞこれ美なるかな、實に講演會場に、時ならぬ花を咲かしたり。……

……獨逸科合併の「ヴェルヘルム・テル」（悲劇）、嗚呼此戲、此態度、如何に聴衆は感ぜしか、演ずるものも、見るものも、そぞろに感涙に咽びしなり、親子の情として、忍ぶべ

からざる、情を忍んで、我子の生死を、天に任すテルの心、射し矢は美事に「ワルテル」の頭上にある林檎を落したりし時、父子相抱きて、暫時涙にくるゝの状、誰とて泣かざるものあらん、貴婦人席を始めとして、「ハンケチ」を出して、眼をぬぐふの人、鼻かむ人の、彼處に此處にありしは、如何に獨逸科日頃の練習の、甲斐ありしよ、眞に當夜の月桂冠は、此の手に落ちたり。……

この日「來賓の主なるものは義和宮殿下ならびに公使館員、佛國公使、伊太利公使、墨國領事、細川男爵、鍋島子爵、其他各國公使館員、朝野の名士貴婦人等なり」とあります。

以来百年、戦争や戦後の混乱による中断はありましたが「語劇」は続けられ、今日を迎えています。今年には新しくできたアゴラ・グロバールホールでの上演ですね。

最後に「語劇」に関する本の紹介『劇場を世界に 外国語劇の歴史と挑戦』（谷川道子＋柳原孝敦 編著 二〇〇八年三月発行） 語劇についても触れる。語劇百年の歴史については渡辺雅司先生のエッセイがあり

年表もあって便利。歌舞伎の松本幸四郎氏の講演録も面白いでした。

（昭34卒 町田裕子）

会計から

ロシア会の会費は、大学全体の同窓会組織である外語会の会費とは別立てになっており、金額は以下のいずれかをお選びいただけます。(※会報送付の封筒の宛名頭部に赤字で〇印のある方は終身会費納入済みのため、払込票は同封してありません)。

- ・終身会費 三万円(ゆうちょ銀行から振込む場合、手数料は窓口三三〇円、ATM二九〇円)または
- ・年会費 二千元(同、窓口二二〇円、ATM八〇円)

お手持ちのゆうちょ銀行総合口座

からATMを利用して振込む場合、平成二三年九月三十日までは手数料が無料となります。

納入状況は別表の通りで、終身会費納入者は昨年度より一名減り、収入合計は前年比約二万六千円の減収となりました。支出は、懇親会への補助と語劇支援費を二十三万円弱圧縮できましたが、アゴラ・グローバル整備基金への寄付等により、全体として前年比三十六万円余り増加し、年間収支は七十五万円余りの赤字となりました。

会の活動基盤を維持、強化するため皆様方の一層のご支援をお願い申し上げます。

し上げます。特に終身会費納入及び懇親会への積極的参加にご協力いただければ幸いです。(懇親会については、先輩と後輩との交流を図る機会として学生は無料にしようとの旧ロシア会・八杉先生以来の伝統を継承し、例年本会計より補助を行っております。)

尚、アゴラ・グローバルへの寄付にあたっては、施設内のプロメテウス・ホール座席に本会の名を刻印したプレートが設置されました。会員の皆様方には改めてご協力に感謝申し上げます。

◆二〇〇九年度 終身会費納入者
今年度に三万円一括納入された方
及び分納額の累計が三万円に達した方のお名前は以下の通りです。
(送金到着順、敬称略)。

柿沢寿美子、内堀学、高江友美子、
前田和泉、根石守雄、牟禮那々子、
五月女中、山本邦彦、蓮見雄、
小谷美恵、横山博行。
計十一名

ロシア会会計 前田和泉

東京外語ロシア会 2009 年度収支

(2009年4月1日～2010年3月31日 単位 円、監査実施済)

1 収入	終身会費 (10名、単価3万円)	300,000
	年会費 (延べ54.5名、単価2千元)	109,000
	寄付金	2,000
	郵便貯金利息	1,062
	合計	412,062

注：年会費には1千、4千、8千、1万円の納入者あり

2 支出	会報制作費(印刷製本作業代)	265,965
	会報宛名ラベル(支払先:外語会)	17,000
	会報郵送費	161,940
	郵便費(総会・懇親会返信料)	4,680
	霊園管理料(ミューリッ先生お墓)	3,300
	振替払込票の印字費(会費納入用)	1,800
	会議費(7月1日幹事打合せ)	5,172
	語劇支援金	50,000
	払込手数料(2件)	750
	懇親会への補助	160,420
	寄付金(外語大アゴラ・グローバル整備基金)	500,000
	合計	1,167,027

3 差引計算及び繰越金		
	差引剰余金	▲754,965
	前期繰越金	2,990,015
	次期繰越金	2,235,050

ロシア会懇親会収支

(2009年11月23日実施、単位 円)

1 収入	出席者会費(卒業生48名 単価5千元)	240,000
	本会計からの補助	160,420
	合計	400,420
2 支出	料理代(外語大生協)	400,000
	払込手数料(1件)	420
	合計	400,420

二〇一〇年度 ロシア会総会・懇親会のお知らせ

今年度のロシア会総会・懇親会を左記により開催します。年に一度のロシア科全同窓生の集まりです。各年度、各クラスでお誘い合わせの上、是非、ご出席下さい。

日時 11月20日(土) 午後六時～八時

会場 日本外国人記者クラブ

有楽町電気ビル北館20階 Tel.03-3211-3161

JR有楽町駅日比谷口出口から徒歩一分です

総会 渡辺雅司会長よりこの一年の報告

会務報告 会計 会報等

講演 「東京外国語大学はどう生きのびるか」

学長 亀山郁夫氏

懇親会 ビュッフェ形式

会費 七千円

ご出席の方は同封の返信用はがきを11月5日必着でご投函を。

二〇一〇年度外語祭ロシア語科二年語劇のお知らせです!

演目 『巖流検察官』(原作、原案:ゴゴリ 『検察官』 / 『巖流島』)
内容:「検察官が来る!!」ロシアの鬼才ゴゴリの『検察官』と日本決闘の最高峰『巖流島』が奇跡の融合。従来の語劇とは一風変わった新たな演劇をお届けします。待ち人は来るのか来ないのか!?

11月23日(火・祝) 15時～16時10分 アゴラ・グローバルホールで上演。

「皆様へお願い」

住所変更等の際は

是非「ご連絡を!」

この会報が送られる封筒に貼る宛名ラベルは、東京外語会のプライバシーポリシーに基づき、同会事務局に打ち出してもらっています。全学の同窓組織である東京外語会は全卒業生の氏名、卒業語科、卒業年、連絡先等のデータベースを持ち、その管理・更新を行っています。年三回発行される外語会の会報は、このデータに従って発送されます。

住所などに変更があった場合、そのお知らせをいただけないとデータは更新されません。更新されなければ、宛名ラベルには古い住所が印刷され、宛先不明で戻ってきてしまいます。このロシア会会報を発送する際にも、そのようなケースが毎年多発しております。

ロシア会としても、可能なかぎり新しく正確な卒業生名簿を持つようにしたいと願っています。会報発送だけではなく、会費納入記録の管理等、円滑な事務運営のためにも正確な名簿の作成は必要不可欠です。

そのためには皆様のご協力が欠かせません。住所などの変更があった時は、忘れずにロシア会までお知らせ下さい。また、クラスの名簿を更

新した時には、ロシア会にもご一報いただけると幸いです。外語会事務局にはロシア会からまとめて更新事項を知らせます。皆様の周りでの会報が届いていないロシア科同窓の方がいらつしやいましたら、ぜひともロシア会への連絡を呼びかけていただきたく存じます。

住所変更等の連絡は左記へお願いいたします。

〒一八三―八五三四

東京都府中市朝日町三―一―

東京外国語大学外国語学部

ロシア語専攻 鈴木義一研究室 気付

東京外語ロシア会

【電話】〇四二―三三〇―五二六八

【FAX】〇四二―三三〇―五四二九

【メール】 rshakata@rufs.ac.jp

編集後記

この夏は記録すくめの猛暑でした。会報13号をお届けします。

P.4 小林実さんの著作『明治大正露文化受容史 ―二葉亭四迷、相馬黒光を中心に―』は四六二頁の力作ですね。

いずれも興味深い内容の文章をお寄せ下さった寄稿者みなさま、本号の制作にご協力下さった方々に感謝いたします。(昭34卒 町田裕子)